

広島大学大学院先進理工系科学研究科入学試験問題

数 学 プ ロ グ ラ ム	専門科目	令和 2 年 1 月 実施
---------------	------	---------------

次の [1] , [2] , [3] の全問に解答せよ .

[ 1 ] 次の (A), (B) のすべての問に答えよ .

(A) 以下の問に答えよ .

(1)  $\mathbb{R}^3$

# 広島大学大学院先進理工系科学研究科入学試験問題

数 学 プ ロ グ ラ ム	専 門 科 目	令 和 2 年 1 月 実 施
---------------	---------	-----------------

[ 2 ] 次の (A), (B) のすべての問に答えよ .

(A)  $\mathbb{R}^2$  上の実数値連続関数  $f(x, y)$  が  $\lim_{|x|+|y| \rightarrow \infty} f(x, y) = \infty$  を満たすとする . 以下の問に答えよ .

- (1)  $\lim_{|x|+|y| \rightarrow \infty} f(x, y) = \infty$  となることの定義を述べよ . また , 関数  $f(x, y)$  が最小値をもつことの定義を述べよ .
- (2)  $R > 0$  が存在して  $|x| + |y| > R$  のとき  $f(x, y) > f(0, 0)$  となることを示せ .
- (3) 関数  $f(x, y)$  は  $\mathbb{R}^2$  において最小値をもつことを示せ .

(B) 以下の問に答えよ .

- (1)  $f(x) = \sin x$  ( $x \in \mathbb{R}$ ) がマクローリン級数展開可能であることを示し , 総和記号を用いてマクローリン級数展開を与えよ . ただし , 関数  $f(x)$  が  $\mathbb{R}$  上  $C^\infty$  級であることは証明なしに用いてもよい .
- (2) 任意の  $x \in \mathbb{R}$  に対して不等式

$$0 \leq x^2 - \sin(x^2) \leq \frac{x^6}{6}$$

が成り立つことを示せ .

- (3)  $\mathbb{R}^2$  上の関数  $g(x, y)$  が  $(x, y) = (x_0, y_0)$  において全微分可能であることの定義を述べよ .
- (4)  $\mathbb{R}^2$  上の関数  $h(x, y)$  を

$$h(x, y) = \begin{cases} \frac{\sin(x^2) + \sin(y^2)}{x^2 + y^2} & ((x, y) \neq (0, 0)), \\ 1 & ((x, y) = (0, 0)) \end{cases}$$

により定義するとき ,  $h(x, y)$  は  $(x, y) = (0, 0)$  において全微分可能であることを示せ .

# 広島大学大学院先進理工系科学研究科入学試験問題

数 学 プ ロ グ ラ ム	専 門 科 目	令 和 2 年 1 月 実 施
---------------	---------	-----------------

[ 3 ] 次の (A), (B) のすべての問に答えよ .

(A)  $a, b$  を正の実数とする .  $x = (x_1, x_2), y = (y_1, y_2) \in \mathbb{R}^2$  に対して

$$d(x, y) = \max\{|x_1 - y_1|, |x_2 - y_2|\},$$
$$(x, y) = a|x_1 - y_1| + b|x_2 - y_2|$$

と定める . 以下の問に答えよ .

- (1)  $d$  と  $(x, y)$  は  $\mathbb{R}^2$  上の距離であることを示せ .
- (2)  $A \subset \mathbb{R}^2$  が距離  $d$  に関して開集合であることの定義を述べよ .
- (3) 距離  $d$  に関する開集合と距離  $(x, y)$  に関する開集合は一致することを示せ .

(B) 実数の集合  $\mathbb{R}$  を通常位相で位相空間とみなし , その位相 (開集合系) を  $\mathcal{O}$  と表す . 以下の問に答えよ .

- (1) 関数  $f: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}$  に対して , 部分集合系  $\mathcal{O}_f = \{f^{-1}(A) \mid A \in \mathcal{O}\}$  は集合  $\mathbb{R}$  の位相であることを示せ .
- (2) 関数  $f: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}$  を  $f(x) = x^2$  ( $x \in \mathbb{R}$ ) で定める . このとき (1) で定めた  $\mathbb{R}$  上の位相  $\mathcal{O}_f$  はハウスドルフの分離公理を満たさないことを示せ .
- (3) 関数  $f: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}$  に対して , (1) で定めた  $\mathbb{R}$  の位相  $\mathcal{O}_f$  が  $\mathbb{R}$  の通常位相  $\mathcal{O}$  に一致するとき , 次を示せ .
  - (i)  $f$  は単射である .
  - (ii) 任意の開区間  $I \subset \mathbb{R}$  に対し ,  $f(I) \subset \mathbb{R}$  は開区間である .